伝える力がつけば変わる!

情報表現力

日本語文章や色彩・図解の表現方法を学習
Officeソフトの基本操作でOK!
文書作成が驚くほどうまくなる!

noa
NOA PUBLISHING FIRM.

STEP1 語彙（ごい）を増やす

Lesson1 かなの表記・同音異義語

（1）語彙を増やすために

社会で活躍するために必要となる能力は多数ありますが、日本の社会で活躍するためのもっとも根本的なものは「**国語力**」です。読み書きができる、他人の話が理解できる、自分の言いたいことを相手に分かるように正確に伝えることができる力がもっとも重要です。

それには、まず**語彙**（ごい）（ボキャブラリ：読む・書く・話すときの語句の量）を増やさなければなりません。さらに、文章を組み立てる論理的思考力と文章構成力を学び、社会常識としての文章表現のマナーを身に付ければ、文章表現力は必ず強化されます。

社会で活躍するための語彙を増やし、表現力を強化するのにもっとも良い方法は、毎日必ず新聞を読むことです。それも、辞書を手元において、意味がよく分からない語句は必ずその場で確認しましょう。時間があれば将来の希望進路に関する新書や専門誌も、あわせて読むとよいでしょう。

見たことも聞いたこともない語句は、意味を正確に把握することができません。新聞には、現代社会の常識的な語句が豊富に使われています。また、ニュース記事、社説、コラム、投書欄、株価や気温などのデータ欄、広告欄があり、事実を伝える文章、持論を展開する文章、共感を呼ぶエッセイ、わかりやすい表や図解、目をひくキャッチコピーなど参考になるものがコンパクトにおさめられています。

若いうちにいかに多くの本を読むかでその後の人生が大きく異なるといわれます。いかに生きるかを考えるために小説を読むことは非常に重要ですが、実務的な表現力を付けたいならば、新聞を読むことをおすすめします。

（２）ひらがなの表記

現代社会では、パソコンで文章を作成できることが重要です。パソコンでは読みがなを間違えると、正しい漢字に変換できません。

しかし、日本語には発音どおりに表記しないものや、発音が同じで、かなの表記が異なるものがあります。ここでは、間違えやすいひらがなとカタカナの表記について確認しましょう。

※以下は昭和 61 年（1986 年）、現代かな遣いのよりどころとして定められた内閣告示に基づいています。

１）発音と表記が異なるひらがな

①長音

原則として長音（伸ばす音）は、前の文字があ列（あ・か・さ・た・な…）なら「あ」、い列なら「い」、う列なら「う」を添えます。この場合は発音と表記が一致します。しかし、え列は「え」と発音するか「い」と発音するかに関わらず、ほとんどの場合「い」と表記します。

かれい（華麗）	せいくらべ（背比べ）
へいたい（兵隊）	えいが（映画）
とけい（時計）	けいたい（携帯）

例外として、以下に注意が必要です。

おねえさん	ええと（応答の一種）
へえ（感嘆の語句）	

お列はほとんどの場合「お」と発音しますが、「う」と表記します。

おとうさん	とうだい（灯台）
とうきょう（東京）	わこうど（若人）
おうぎ（扇）	せんそう（戦争）
おうさま（王様）	おうじ（王子）
みぞう（未曾有）	もうす（申す）
こうそう（構想）	そうり（総理）
のうき（納期）	ほうちょう（包丁）
もうふ（毛布）	ようじん（用心）

例外として、以下に注意が必要です。

とおり（通り）	とおい（遠い）
おおい（多い、覆い）	おおかた（大方）
おおやけ（公）	こおり（氷）
おおかみ（狼）	こおろぎ（虫の名）
ほおずき（植物の名）	ほおじろ（鳥の名）

②「言う」

発音は「ゆう」ですが、「いう」と表記します。

そういうこと	いうまでもない	～というもの（こと）

③「良い」

発音は「よい」、「いい」ですが、「よい」と表記します。

性質がよい	よい品を見つけた

２）発音が同じで表記が異なるひらがな

①助詞の「は」と「わ」

「私は東京に行きます。」、「今日は晴れています。」など助詞には「は」を使います。しかし助詞にみえないものでも「は」で表記したり、助詞のようでも「わ」で表記したりするものがあります。

「は」を使う例

こんにちは	こんばんは	ではさようなら
あるいは	または	もしくは
いずれは	さては	ついては
とはいえ	惜しむらくは	恐らくは
願わくは	これはこれは	
～もものかは※（例：悪天候もものかは、彼は出発した。）		

※ものかは：平気で、ものともせずという意味

例外として「わ」を使う例

いまわ（漢字では「今際」。死ぬ間際という意味）
すわ（大変だ！という意味。例：すわ一大事）
大雨になるわ雷はなるわ
でてくるわでてくるわ（驚いたり呆れたりする気持ちの表現）
きれいだわ（感動した気持ちの表現）

②「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」

発音は同じですが、ほとんどの場合は「じ」、「ず」と表記します。ただし、以下の例外があります。

1．同じ音が続く場合

つづみ（鼓）
つづく（続く）
つづる（綴る）
ちぢみ（縮み）

1の例外

いちじく
いちじるしい（著しい）

2．２つの語句を複合して、読みが「ち」、「つ」から変化した場合

そこぢから（底力）	あとぢえ（後知恵）
ちかぢか（近々）	ごはんぢゃわん（ご飯茶碗）
まぢか（間近）	みかづき（三日月）
ちゃづつ（茶筒）	たづな（手綱）
こづつみ（小包）	みちづれ（道連れ）

2の例外

※以下は2語に分解しにくい語句として「じ」「ず」を使います。平成17年現在、文化庁国語審議会により「ぢ」、「づ」を使っても間違いではないとされていますが、「ぢ」、「づ」を使うとWindowsでは漢字変換できない場合があります。

いなずま（稲妻）	ゆうずう（融通）
きずな（絆）	さかずき（杯）
せかいじゅう（世界中）	かたず（固唾）
ひとりずつ（一人ずつ）	ほおずき（植物の名）
おとずれる（訪れる）	みみずく（動物の名）
うなずく（頷く）	あせみずく（汗みずく）
かしずく（傅く）	さしずめ
つまずく（躓く）	なかんずく
ぬかずく（額ずく）	うでずく（腕ずく）
ひざまずく（跪く）	くろずくめ（黒ずくめ）

3．以下の文字はもともとの読みが「じ」、「ず」で、前記1と2にはあたりません。

地：じしん（地震）、じばん（地盤）
図：ずめん（図面）、ずが（図画）

NOA PUBLISHING FIRM.